

# プロジェクトG

## —地域と映画のつながりを考えカタチにするプロジェクト—

	代表者	古垣寿子（経済B3年）
構成員	榎垣里穂（経済B3年）堀川順子（経済B3年）池田康恵（人文B3年）	
	吉田慧美（経済B3年）山本百合香（人文B2年）	
	金重暁子（経済B3年）福原輝久（人文B3年）	
	晋川卓也（経済B2年）弘中真子（経済B1年）	
	石津えりか（経済B3年）	

### 1. プロジェクト概要

プロジェクトGでは、学生や地域住民に山口と映画の素晴らしさを多く知ってもらうために、実際に自分たちで山口でのロケ地を決め、短編映画を撮影している。また、6月30日には山口県下関市出身の佐々部清映画監督の講演を行った。地元映画がその作品と土地に与える影響を監督の豊かな経験から学び、私たちが発信していくことを当プロジェクトの目標としている。

### 2. 短編映画撮影「足湯物語」

短編映画を制作するにあたり、大学生に身近である湯田温泉をロケ地として使用することにした。そのなかでも山口市の名物である「足湯」と古くから伝わる「白狐伝説」を掛け合わせてできたのが、この「足湯物語」である。シナリオは今年2月から古垣、榎垣が推敲を重ね、4月に完成した。その後、5月中旬より撮影を開始した。監督は古垣、役者は同じく古垣、山本、福原の3名である。映画製作が初めてのメンバーも多く、天候により予定通りに撮影が進まないなどさまざまな困難もあったが、メンバーの協力により6月上旬に無事に撮影を終了することができた。その後は、映画の編集作業を行った。編集作業は撮影とは違い、屋内ではあったが長時間パソコンの画面を見続けることや、画面や音の調整など細かい作業を続けるため、撮影よりも大変な作業であった。連日、深夜まで作業を続け講演会前日の29日に「足湯物語」は完成した。

### 3. 講演会

2012年6月30日に日本アカデミー賞を受賞された佐々部清監督をお招きし、講演会を開催した。講演会は「チルソクの夏」の上映、監督のディスカッション、そして「足湯物語」の初上映の場でもあった。講演会の準備は昨年11月より始め、11月27日に周南で行われた周南映画祭で佐々部監督に直接会い、プロジェクトの内容を伝えた。その後、監督の所属する株式会社シネムーブと連絡を重ね、講演会への出演を了承していただいた。また、「チルソクの夏」上映のために、株式会社ブレノンアッシュから上映権をお借りした。外部との交渉は想像以上に難しく、時間がかかるものであった。講演会に向け、進行、誘導、記録、映写の役に分かれリハーサルを繰り返し行った。同時にポスター、チラシを制作し、山口市の公共施設や大学での掲示、ラジオ・新聞での宣伝を周囲、地域の方の協力を得ながら進めることができた。そして、当日は大きなトラブルもなく、約70名の観客を迎え、順調に講演会を終えた。講演会後は監督との懇親会を開催した。懇親会では、講演会以上に監督の近くでお話を聞くことができ、より監督の想いを知ることができた。

### 4. 短編映画撮影「姫山伝説」

短編映画「足湯物語」を講演会で監督、観客に評価していただき、その声を踏まえてより良い作品を作ることとなった。「足湯物語」をもう一度撮影し直すという案もあったが、心機一転し全く違う作品を制作する。そこで姫山の伝説を基に、9月より撮影を開始した。11月下旬から、12月上旬の公開を予定している。



「足湯物語」撮影時



講演会 その1



講演会 その2